



1 学期終了、明日から楽しい夏休みへレッツゴー！

校舎をキレイにして子どもたちは夏休みを迎えます。

期末清掃で普段手の届いていない箇所を重点的にキレイにしました。さらに、下足箱掃除、教室のワックスがけを行い校舎への感謝の気持ちを込めて、ピカピカにしました。ワックスがけのために教室の椅子や机などすべての物を子どもたちが協力して手際よく廊下に出しました。1、2年の教室へは、5、6年の児童が手伝いに来てくれました。このような活動を通して、校舎への感謝の気持ちや整理整頓の大切さを感じてほしいです。整った環境で学習や生活することが健やかな子どもの成長には欠かせないと思います。



夏休みプール開放に向けてAED講習会を実施しました。保護者、職員の11名が参加し、花巻消防署大迫分署の署員の方から講習を受けました。

プールでの事故は命の危険に直結します。AEDは学校に装備してありますが、いざというとき実際に使えなければ、命を守ることはできません。水深30cmあれば溺れる危険性があるため、油断は禁物です。

救助対象者への初期対応の仕方及びAEDの操作の仕方を一通り学んだ後、3グループに分かれて実践練習を一人一人が行いました。

子どもたちが安全に楽しくプールを満喫できる夏休みになることを願っています。



「大きくな一れ、甘くな一れ」と思いを込めて



ぶどうのつるきり作業(6/17)からちょうど1ヶ月経ち、ぶどうの実が大きく膨らみました。本日、ぶどうの袋かけ作業を3年生が行いました。

作業は、今回も大迫高校生とめげな会の皆様に作業を手伝ってもらいました。

子どもたちは一房ごとに袋をかぶせました。

思った以上にぶどう

の房があり、袋がたりなくなりました。

ぶどうはどんな色になるか？いつ頃に収穫できるか？楽しみがいっぱい詰まった袋かけ作業でした。



子どもの探究する力は無限大！

まだせみの鳴き声は聞こえていませんが、本校の庭園で1年生がせみの幼虫の穴を見つけ、教えてくれました。早速、穴をのぞくと動く物体がありました。子どもたちは、細い木の枝を穴に入れて引っ張り出そうとします。しかし、なかなかうまく枝をつかんでくれません。そこで、私が一言、「小指を穴に入れて見なさい。」すると、せみの幼虫は指とともに穴から出てきました。

想像以上に大きな体にみんなで驚きました。「どうやって成虫になるの？」と質問すると、「木に登って、背中が半分にさけて、そこから成虫になるよ。」と即答でした。子どもは昆虫博士です。



本校の歴史と伝統を帽章から振り返る



寄贈いただいた帽章

先日、平野達郎様（本校卒業生）から帽章の寄贈がありました。昭和40年代に使用していたものです。

本校創立110周年の際にも当時の教育委員会に寄贈について相談したこともあったとお話を聞きました。

昨年度、創立150周年を迎えたことを機に、何かお役に立てればと考えてくださり、教育委員会を通して本校に帽章を届けていただきました。

帽章は、いつも見慣れている児童昇降口の校章と全く同じデザインですが、手に取り感触を確かめると、改めて大迫小学校の伝統と歴史の重さを実感するものでした。



現在の児童玄関の校章

共に考える その1「自分の気持ちをコントロールする力」

高学年は、中学校進学に向けて生活・学習習慣を確立するための大事な学年です。

特に家庭学習の時間を確保するかが重要です。

現状は、スマホやゲーム時間＞学習時間の傾向が見られます。そこで、伊藤信彦先生（教育委員会学力向上担当）と5年生が自身の生活を振り返る学習を行いました。「テレビ、ゲーム、スマホなどに振り回される生活になっていませんか。自分の気持ちをコントロールして、規則正しい生活・学習習慣を身につけることが自分を成長させてくれます。」とアドバイスをいただきました。



共に考える その2「文章を読み取る力を育てる」

新聞を読んで気になる記事に目がとまりました。子どもたちは成長する度に様々なテストや試験に挑んでいくことになります。「問題を解く実力があっても、試験時間が足りずに答えきれない。」「文章量だけでなく、複数の情報（グラフや表など）を関連づけて読む力がより問われる。」と記事にあります。

そこから、読書の大切さについて考えさせられました。子どもたちは、長い文章に対しての抵抗感や途中で飽きてしまう傾向があるように感じています。読書習慣を小学生から身につけておく必要があります。文章を早く正確に読み取ることが学習意欲向上へつながっていくものと考えます。